

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	・特別支援教育を核として、多様性を認め合い、「みんなの幸せのため」に共に成長する教育活動を、「チーム岩野田」で推進する。 ・「なぜ」「どうして」を大切にした主体的で対話的な学びの実現に向け、授業改善に取り組む。		・児童の94.8% (前年度より2.9%アップ) が仲間と一緒に勉強したり遊んだりすることが楽しいと回答し、教育課程の工夫が効果を表していると感じる。 ・通常学級担任が、特支学級の授業に参加し、児童交流と指導法を学んでいる。 ・校内研究として、全担任が互いの授業を見合い、授業改善に取り組んだ。 ・ 「英語の授業が楽しい」と83.9%の児童が回答(6.4%アップ)、工夫改善に取り組んだ。	・様々な先生方との関わりの中で、子どもたちが成長していくことの大切さを感じた。 ・児童が楽しめる企画が工夫されている。児童の考えをさらに生かしてほしい。 ・先生方からの投げかけが、答えを教えるのではなく、問いを促す声かけをしていると感じた。過程を大切にに取り組んでほしい。	・職員の専門性や知識、スキルを互いに学び合いながら、「チーム岩野田」としての指導体制をさらに充実させたい。 ・「なぜ」「どうして」の課題意識をもって探究的に学ぶ授業づくりと、基礎的な学力の向上に今後も取り組んでいく。 ・異学年との協働体験「ふれあい活動」を位置づけ、異学年との様々な交流の中で、つながり、気付きを生む。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	・「ぎふMIRAI's」を視点を、岩野田校区の「人・もの・こと」を取り上げ、地域人材、地域資源を活用することで、コミュニティ・スクールの機能の充実を図る。 ・校区の特性を生かした幼保小中高大学との連携を図った取り組みを推進する。		・ふれあいの森探検、若崎みこし、JAと畑の活動等、地域人材・地域教材を生かした生活科と総合的な学習「いずみ」を実践し、岩野田の一員である意識の向上を図った。 ・幼保小の連絡協議会、1年生と年長園児との遊びの交流や、岐阜城北高生による読み聞かせ、先生方の授業参観等、つながりを意識した活動を増やすことができた。	・幼保から大学までそろっている地域の特性をおおいに発揮してほしい。 ・学生(高校生)が小学生から学ぶことが多く、よい機会をいただいていることに感謝している。 ・今後もより必要な場面で地域が協力できるように要望してほしい。	・地域との連携事業のよりよい関わりを考え、地域コーディネータと連携して岩野田校区の地域人材・資源のよりよい活用を進める。 ・校区の特性を生かした幼保小中高大学との連携を図った取り組みを、互いにより効果のある活動となるよう、相談して進めていく。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	・教職員が笑顔で、元気に子どもたちの前に立てよう、業務改善、時間外勤務時間の適切な管理を行う。 ・職員同士の日常的な連携を図り、誰もが自己有用感がもてる「働きがい」のある職場を創る。 ・ICT機器を活用し、より効果的、効率的な働き方改革を進める。		・行事、取組の他、放課後の会議等の精選により、職員の放課後の時間の確保に努めた。 ・学年部での相談、支え合いにより「一人で抱えない」連携のある職員間を意識した。 ・時間割を工夫し、授業時間内に学年打ち合わせの時間の確保し、効率化を図った。 ・夕方5時30分から留守番電話活用により、放課後の業務時間短縮を図った。	・職員間の情報の共有が大切な中、授業時間内の時間の活用はとてもよいと思う。 ・授業参観では、どの教室も先生方が明るく、元気に接しておられ、好感がもてた。先生方の特色を生かして取り組んでほしい。 ・先生方が自信をもって取り組んでいる様子が見られた。先生方のゆとりがあるよう、取り組んでほしい。	・業務量や業務内容の平準化を考え、月30時間の時間外勤務時間を目指すと共に、全職員が元気に、笑顔で児童と接することができるよう働きがいの改善を図る。 ・職員間のコミュニケーションを大切に、互いの長所を生かし、支え合う職場づくりに取り組む。 ・会議や打ち合わせの効率を上げるためのICT機器の効果的な活用をさらに進める。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	・主体的で深い学びの実現を目指し、ICTを効果的に活用した学びを探索し、教育DXを推進する。 ・ここタンの活用や日頃の児童に寄り添う教育相談を大切にしている。 ・実践的な命を守る訓練を効果的にを行い、「自分の命は自分で守る」危機管理能力を育成する。		・学年部での授業公開による授業改善に取り組んだが、児童の実態に合わせて基礎的な学力の向上に努める必要がある。 ・教育相談やいじめ等の問題に対する先生方の対応は、児童評価89.3%(1.2%↑)保護者80.6%(2%↑)となった。 ・様々な「命を守る訓練」の実施により、自助・共助の意識の向上を図ることができた。	・デジタルだけに偏らず、書くノートづくりとのバランスのある学習がよいと感じた。 ・体育の授業でタブレットや大型テレビを使って、動画を活用するのは効果的だと感じた。 ・先生方の丁寧な対応により、低学年の落ち着き、成長を感じました。	・タブレットの活用と書くノートづくりの効果的な併用の在り方を探っていく。 ・異年齢集団での「ふれあい遊び」活動、互いに学び合い、対話によるつながりを大切にする。 ・自分の得意や好きを伸ばす、時間と場面(わくわくデー)を位置付ける。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	・職員が多種多様な事態への危機管理意識を高くもち、様々な学校事故の「未然防止」に努める。 ・各種マニュアル(危機管理)の恒常的な見直しを行う。 ・家庭、地域、関係諸機関と連携し、地域ぐるみで児童を見守る体制をつくる。		・学校の安全への取り組みに対し、保護者評価83.3%(前年度より5.9%↑)の達成。 ・さす股を各階に増設して、より実践的な「不審者対応訓練」を実施し、児童の安全確保につなげた。 ・首から上の怪我への早急な対応を実施。 ・地域と共に学ぶ、【岩野田小学校防災避難訓練(体験)】を新たに実施した。	・防犯に対して、「備える」から「使う」という想定で準備がされているのがよい。 ・子どもの頃から防災に関心もてるようにして、親が子どもから学ぶ機会ができるとよい。 ・地域と共に学ぶ防災の学習は、今後も継続して学ぶ機会としたい。	・毎月のコンプライアンス研修を継続し、児童、職員の安全安心を目指す、危機管理意識の向上を図る。 ・「自分の命は自分で守る」から「岩野田地域で自分を守る」意識を高める地域防災体験学習を継続する。 ・安全に関わる情報をスマート連絡帳を活用した情報提供を行い、家庭、地域との連携を図る。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	・紙ベースからデジタルデータまで、個人情報の適切な管理に努める。 ・施設設備などの定期点検や早急な修繕対応等、適切な管理に努める。 ・学校納入金の適切な取り扱いと管理を、複数の職員が目で行う。		・個人情報保護に心掛け、学校ホームページの更新、スマート連絡帳による丁寧な連絡・報告を行った。 ・毎月、校内安全点検を実施し、必要に応じて早期修繕、早期改善を市に要望して修繕を行った。保護者評価84.7%(3.8%↑) ・事務、担任、管理職による納入金の確認	・保護者への連絡が密になされていると感じ、今後も大切にしていきたい。 ・個人情報の管理には難しい面もあるが、今後も情報発信をすることと両立を図ってほしい。 ・金銭のトラブルがないよう、適切な管理をお願いしたい。	・デジタルデータの個人情報に関する適切な管理の意識啓発を図り、日頃から互いに声をかけ合っていく。 ・安全安心に学校生活を送れるよう、施設の点検・整備など、適切な管理に努める。 ・学校納入金の適切な取り扱いを引き続き努めていく